

研究・調査報告書

報告書番号	担当
272	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol use, sexual activity, and perceived risk in high school athletes and non-athletes. 高校運動選手と非運動選手における飲酒、性行為、自覚リスク	
執筆者	
Wetherill RR, Fromme K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Adolesc Health. 2007 Sep;41(3):294-301.	
キーワード	
運動選手、自覚リスク、飲酒、性行為	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>高校の運動選手は非運動選手に比較して危険な行動をとることが多いが、自己の「無敵」感がそのような行動の寄与因子であるかを検討した。運動参加と飲酒や、性行為との中間媒介因子として危険な行動に関する自己のリスク評価（自覚リスク）との関係を評価した。</p> <p>方法：</p> <p>2,247人の大学関連の高校生を対象にウェブサイト上で調査を行った。記入は家を出る前にしてもらい、項目は飲酒、性行為、運動参加および自覚リスクである。一般化 (generalized) 線形回帰と Baron および Kenny の方法 (1996) を用いた中間媒介モデル (the mediational models) を分析した。</p> <p>結果：</p> <p>非運動選手と比較して運動選手はアルコール摂取頻度が多く、セックス・パートナーの数も多く報告されていた。また、運動選手における自覚リスクは非運動選手より低く報告された。若年の男女とも、自覚リスクは運動参加と飲酒との中間媒介をしていた。自覚リスクは女性においては運動参加とセックス・パートナー数との関連も中間媒介していた。男性においては部分的な媒介にとどまった。運動参加と危険な性行為との関係も自覚リスクが中間媒介しており、これは男女ともに認められた。</p> <p>結論：</p> <p>青年後期の運動選手と非運動選手に見られる飲酒と性行為に関する行動の違いを説明しえる認知機構が本研究結果から示唆された。</p>	